

# The Kamenori Community かめのりコミュニティ

公益財団法人 かめのり財団は、日本とアジア・オセアニアの若い世代の交流を通じて、  
未来にわたって各国との友好関係と相互理解を促進するとともに、  
その架け橋となるグローバル・リーダーの育成を目的に事業を行っています。

 公益財団法人  
**かめのり財団**  
Kamenori The Kamenori Foundation

2013年3月 No.12

## 今号の内容

- ◇高校生短期交流プログラム  
韓国・中国の高校生が日本で異文化体験
- ◇かめのりフォーラム2013  
第6回かめのり賞表彰式  
ゲストスピーチ  
奨学生体験発表  
かめのりセッション
- ◇講演会  
王敏理事講演会開催

かめのりフォーラム 2013 関係者と奨学生の歓談の様子



## 高校生短期交流プログラム

### 韓国・中国の高校生が日本で異文化体験

日本語能力を向上させたい、日本の文化を体験したいという思いを持った受入生10名が、2013年1月に来日。ホストファミリーとともに生活しながら、高校に通学し、日本の習慣や生活様式、文化や言葉を学び、同世代との交流を通じて異文化への理解を深めました。来日後の懇談では、日本語で自己紹介をしてくれ、これから始まる体験にわくわくしている様子が印象的でした。「伝統楽器について知りたい」「日本の料理はおいしいので、ぜひ習いたい」「より良い中日の関係を築く機会に

したい]などそれぞれが目標を持って過ごした1ヵ月は、さまざまな違いを発見する新鮮な毎日となり、異文化への興味が広がってきました。学校ではたくさんの友だちと一緒に授業を受け、部活動に参加し、実際に日本の高校生活を送り、受入生にとってかけがえない体験ができました。これからはこの体験を自国の家族や友人に伝え、日本で出会った人々とのつながりを大切にし、交流を長く続けていってほしいと思います。



上) 中国からの受入生  
下) 韓国からの受入生

# かめのりコミュニティ

## かめのりフォーラム2013

お世話になっている関係者の方々をお招きし、2013年1月11日(金)に「かめのりフォーラム2013」をアルカディア市ヶ谷(東京都千代田区)にて開催しました。全国から集まった中学・高校・大学院の奨学生が民族衣装を身にまとい、彩りを添えて始まった本フォーラムは、第1部にかめのり賞表彰式、奨学生体験発表とゲストスピーチ、第2部では、奨学生によるネパール舞踊と自己紹介をし、来場者同士が交流を深める貴重な機会を持つことができました。翌1月12日には奨学生がお互いの留学体験を振り返るかめのりセッションを行いました。



## 第6回かめのり賞表彰式

2012年度は、次の8団体の授賞が決定しました。

### 表彰者(敬称略)



#### 江差・スリランカ友好の会

スリランカの教育の行き届かない地域でプレスクール「TERAKOYA」を運営し、子どもを中心とした英語教育や公立小中学校に対する情報教育などの施設拡充や医療支援活動を通じて、国際協力に大きく貢献。



#### 多文化ファミリー会とめ

宮城県登米市でアジアからの外国人配偶者への日本語講座やサポートをきっかけに、多文化に関するセミナーや交流会を通じて、外国人市民が地域社会の一員として活躍できる多文化共生の地域づくりに大きく貢献。



#### 特定非営利活動法人 デックタイグループ

栃木県宇都宮市で在日タイ人が中心となり、相談業務、日本語・タイ語教室や日本人との交流会を通じて、日本でのタイ文化普及やネットワークづくりなど地域での国際相互理解と多文化共生の推進に大きく貢献。



#### 特定非営利活動法人 かものはしプロジェクト

カンボジアで最貧困層女性への職業訓練、孤児院・警察訓練などの支援や日本人のスタディツアーを通じて、子どもが未来に希望を持てる活動を持続的かつ発展的に行うことにより国際協力に多大な貢献。



#### アジア女性自立プロジェクト

アジアを知るための学習会やスタディツアー、在日外国人女性への相談・情報提供、フェアトレード活動を通じて、アジアで国籍、性別、階級を超えて協力しながら生活する社会づくりと相互理解の推進に大きく貢献。



#### 静岡学生NGO あおい

学生が主体となり、カンボジアで高校生を対象にした児童の権利を守る活動や日本の大学生のスタディツアー、啓発誌「かぼちゃ」の頒布を通じて、国際協力や国際理解促進に大きく貢献。



#### 特定非営利活動法人 パーンロムサイジャパン

タイでHIV感染孤児等、社会的に弱い立場の人々への支援や日本とタイでの芸術・文化活動を通じたエイズに関する市民への啓蒙活動を通じて、両国の相互理解促進と国際協力に大きく貢献。



#### 認定特定非営利活動法人 ブリッジ エーシア ジャパン

アジアの人々との連帯、共生の実現のため、ミャンマー・ベトナムを中心にインフラ整備、学校建設、女性の能力・生活向上支援などを通じて、環境改善活動を多角的に行い、国際協力に多大な貢献。

ゲストスピーチ

## グローバル時代の言語教育と人材育成 ～ JSF (にほんご人フォーラム) の意義～

カリフォルニア大学サンディエゴ校 當作靖彦 教授

21世紀の社会とはどういう社会なのか。

- ① 18歳から38歳までに平均10～15の仕事に就く(仕事をしながら新しいスキルを身につける)
- ② 今年卒業する学生が5年後に就いている職業の60%は今まだ存在しない(昔あった職業がなくなりつつある)
- ③ 去年の世界のテクノロジー企業の成長率がこのまま続けば、21世紀の100年間に2万年分の成長を遂げる

……など、このような21世紀を生き延びるには21世紀独自のスキル、あるいは20世紀より高度なスキルが必要である。

例えば、高度の思考能力、問題解決能力、協働能力、リーダーシップ能力、機敏さ、適応能力、率先力、起業家精神、コミュニケーション能力、異文化交渉能力、説明責任能力、責任感、好奇心、学習欲、想像力、創造力、テクノロジー、情報、メディアのリテラシーである。

アメリカでは、現在21世紀に必要なスキルを身につけるよう教える教育改革がおこなわれ、スタンダードに基づいた教育、すなわち具体的に何が出来るようになるか目標立てをし、それを達成できるようにする教育をしている。知識を暗記するのではなく、どう加工して新しい知識を作り出せるかが21世紀に求められている。

その中で、今回、国際交流基金とかめのり財団の共催事業であるJSフォーラム(にほんご人フォーラム)で取り上げているプロジェクト型学習が有効で、グループで作業し(協働)、コミュニケーションをし(異文化体験)、発表する(メディアリテラシー)といった21世紀に必要な能力を試している。

今の日本にはイノベーターが必要であるが、ではどうすればイノベーターになれるのか。それには3つのP(Play遊び、Passion情熱、

Purpose目的)が必要である。そして教育を変えて人を変えていかなければならない。

グローバル人材・人財とは21世紀社会に貢献できる人であり、JSフォーラムは言語教育を通じてそのような人材育成をすることを目的とし、今後30年で日本を変えて、人を変えて、歴史を変えるという可能性を秘めている。国際交流基金とかめのり財団にぜひ長い目でこの事業をサポートしてもらいたい。



## 奨学生体験発表

高校生交換留学プログラムに参加の派遣・受入生と大学院生が発表しました。派遣生は、実際に自分の眼で見、肌でその国を感じることで派遣国のさまざまな面を知ることができ、留学を通じて将来の目標が持てたことを、受入生は、異文化での生活で大切なのは何でも挑戦してみることで、学校での勉強や部活動以外にも積極的に色々な活動に参加し、より充実した日本での生活となったとの発表がありました。大学院生は、研究センターの日々の中でも、留学してから自分と向き合う時間も増え、毎年異なる気づきがあることや多くの人の支えがあって今の留學生活が送れていることを忘れずに、異文化を理解できる人として成長していきたいとの話がありました。



留学体験を発表した奨学生

## かめのりセッション

大学院生と高校生交換留学・短期交流プログラムの奨学生がグループに分かれ、留学体験を共有しました。大学院生は研究の進捗状況や現在の課題などについて意見交換をしました。高校生は、受入・派遣ともにホストファミリーが家族の一員として時に厳しく、広い心で受け入れてくれ、異文化での生活や多くの人との出会いで視野が広がりました。加えて、受入生は学校で生徒が企画から携わ

る文化祭が楽しかったことや方言を覚えるのが大変だったこと、派遣生は自分の経験を生かしアジア留学のすばらしさを伝えていきたいとの話がありました。最後に、創設者である康本健守評議員より「個人がその国の人たちと交流することにより、結果的にその国に対する印象や関係が変わる。みなさんには個々での相互理解、交流を進めていってほしい」とのメッセージを贈りました。



康本評議員

かめのりセッションの様子

## 講演会

2012年度は、王敏理事(法政大学教授)講演会を次のとおり開催しました。

神奈川県立横浜翠嵐高等学校定時制  
「日中が共有するもの -漢字、十二支-」

中国から伝来し、古くから共有している「漢字」は、時代を経て日本独特の形を生み出してきました。身近なところに漢字を取り入れているのが日本の特徴で、レストランの名前に中国の古典「孫悟空」や「三国志」とつけ、和菓子のお店の包装紙にも漢詩が書かれたものがあることなどを紹介。現在では、「超」に代表されるように日本で使われている言葉の意味が伝わり中国で使われています。このようにお互いに学び、相互発展していくことが、異文化を知り、理解することにつながるの話しがありました。



著書の贈呈

四国高等学校国際教育生徒研究発表大会  
「龍馬と共に翔る -巳年でも異文化理解-」

講演会場となった高知県にちなみ「坂本龍馬」の「龍」と兄弟関係にある「蛇」を取り上げました。蛇は、日中韓では幸福をもたらすものとしてあがめられ、共通するものであるが、三ヶ国で古い時代から蛇はさまざまな形で表現され、示されてきたことを説明。「干支」についても同様であり、それぞれの国で独自性、地域性を持っているこれらの伝統・文化を大切に、言語を通じて発信していくことで、異なる地域・国の文化を知り、理解していくことが重要になるとのメッセージが贈られました。



講演の様子

西日本日中文化教育交流協会  
「なぜ噛み合わないのか日本人と中国人」

以心伝心が美德とされる日本と常に白黒を明確に判断する中国といった表現方法をはじめ、日々の生活の中での両国の習慣や美意識の違いを「噛み合わない」と考えられる原因として紹介。このような違いを悪いこととして指摘し合うのではなく、両国で美德とされることを認め合い、補完し合うことが重要となる。長い交流の歴史の中で、いつの時代でも異文化を理解することの苦悩はあったが、それを乗り越えてきた。今の状況を相互理解の新しいステップを作る機会と捉え、お互いに発展していきたいと話がありました。



会員みなさんと一緒に

## 奨学生のこぼ

体験レポートの中から、印象に残る文を紹介します。

日本の両親のもとを離れ外国で暮らすと疲れる時があり、寂しい時がある。しかしそれらひとつひとつを経験し乗り越えた時、日本では絶対に得ることのできない多くものを受け取ることができた。大切なのはできることは全部やってみること、そして笑顔と感謝を忘れないこと。日本の代表というプレッシャーに感じるかもしれないが、留学先の人々は自分の態度や行動を見て判断するということを忘れてはいけない。結局は国と国を超えて、人と人との関わりなのである。外国で自分がどれだけ適応し、人とうまくかわれるかがこの留学を成功させるカギなのだと私は思う。

2012年韓国へ留学 中本 愛子

日本に来る前は、留学とはただ言語と文化を習うためのものだと思います。でも10ヵ月過ごした今は、それだけではなく、学校、友だち、家族から、日本のマナー、他人のことを自分より先に考えなければいけないこと、友だちの作り方、いつも私の周りの人たちに感謝することなど私の未来に社会で役に立つ色々なことを教えてもらいました。これらはどんな本にも書いていない大事な経験から得たもので、私自身が留学前より成長したと感じます。このような素晴らしい経験ができたのは、ホストファミリーをはじめとする周りの皆様のおかげです。

2012年韓国から留学 Seol, Jaewon

## 今後の予定

- 3月 【高校生長期】第7期生受入生来日
- 4月 大学院留学アジア奨学生授与式  
青少年交流事業助成 募集開始(予定)
- 6月 第7回かめのり賞 募集開始(予定)

## ◀ 編集後記 ▶

かめのりセッションで、「日本のここが変だと思うものは？」の問いに受入生は、「銭湯! やはり一緒に入るのは抵抗がある」「通学時間が長い」などそうだろうなあと思う答えの他に、「日本では優先席を譲らない」。もちろん譲らない日本人ばかりではないが、確かにこれは変。海外から来た人に変だと思われない「優先席」にしなければいけないと改めて思いました。(菊地)

発行人 / 西田 浩子  
編集 / 菊地 佐智子  
デザイン / イワブチサトシ (BUTI design)  
印刷 / 佐伯印刷株式会社



日本とアジア・オセアニアの若い世代の交流を支援します!

公益財団法人 **かめのり財団** The Kamenori Foundation

〒102-0083 東京都千代田区麹町 5-5 共立麹町ビル 103

TEL : 03-3234-1694 FAX : 03-3234-1603

E-mail : info@kamenori.jp URL : http://www.kamenori.jp/